

今後のグループディスカッションの進め方について（案）

（前回、運営委員会資料を編集）

1 目的とねらい

川崎市地域包括アシシステム連絡協議会では、14名の委員による運営委員会を立ち上げ、地域包括ケアシステムの第2段階の展開に向けて、取組を推進しております。

この連絡協議会では、多様な参加者同士の意見交換を通じて地域での連携の可能性を模索し、参加者同士が「顔の見える関係」になり、川崎市の地域包括ケアシステムの担い手として、地域で活躍いただくことをめざしています。

2 実施の考え方

本ディスカッションの考え方は次の通りとします。

① 地域包括ケアシステムに対する「考え方」や「意見」を集約します

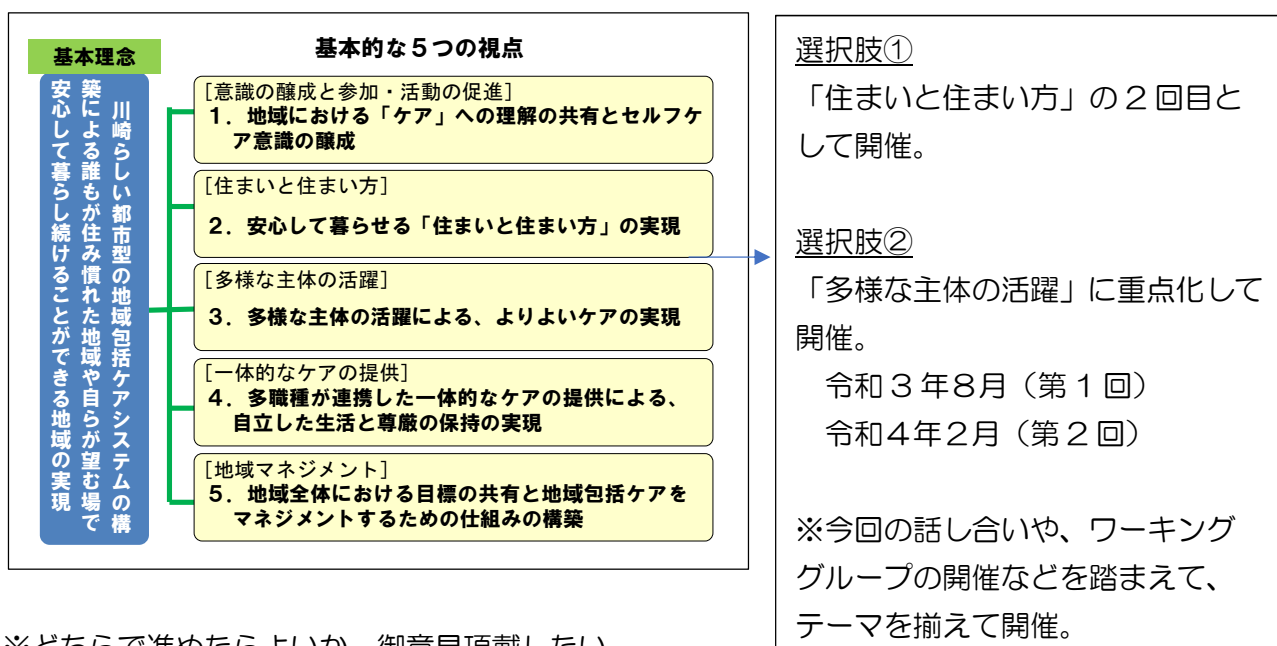
自らが地域包括ケアシステムの担い手と意識できるよう、地域包括ケアシステムの「考え方」や「意見」をカテゴリーごとにまとめます。

② 参加者による「全員参加型」を行います

事業者、企業、大学、市民団体、住民など、多様な参加者が互いに気後れせず、また対等に話し合いに参加できるよう、『自分の立場を考える時間をもつ』・『発言しやすい雰囲気をつくる』・『他人の発言をよく聴く』というルールで話し合いやすい雰囲気を醸成します。

3 連絡協議会のテーマについて

「地域包括ケアシステム推進ビジョン」の基本的な視点を参考として設定することとしたい。



※どちらで進めたらよいか、御意見頂戴したい。

(パターン1) 90分； なるべく意見を出して参加者同士話をする

- ・市長挨拶（3分）
- ・市の取組紹介（10分）
- ・活動報告（12分） ※グループディスカッションのテーマに沿う報告者を選定。
- ・グループワークの流れ説明（5分）
- ・アイスブレイキング（10分）
- ・個人ワーク（10分）
- ・グループディスカッション（25分）
- ・報告（10分） ※2～3グループ
- ・全体講評（5分）

(パターン2) 90分； パターン1の意見も踏まえて、参加者の意見を会全体で深める

- ・市長挨拶（3分）
 - ・活動報告（12分） ※ディスカッションのテーマに沿う報告者を選定。
 - ・ディスカッション全体の流れ説明（10分）
 - ・アイスブレイキング（10分）
 - ・個人ワーク（10分）
※2テーマに分けて付箋紙を貼りに行ってもらう
 - ・市の取組紹介（10分）
 - ・コンサルで付箋紙を整理してまとめる。
主な意見をコンサルから紹介
 - ・テーマにあわせて運営委員の数名からコメント
 - ・全体講評（5分）
- } 15分×2テーマ

【例】

選択肢1

「住まいと住まい方」

令和3年8月 「住み続けられる地域にしていくためには」
「そのために、地域での交流をどう育むか」

選択肢2

「多様な主体の活躍」

令和3年8月 「地域での活動を進めていくのにあたって他の主体との
連携をどう考えるか」（パターン1）
令和4年2月 「地域で必要に応じて多様な主体で連携しやすい環境を
どう育むか」（パターン2）

} 1セット

【事務局（案）】

○次回（令和3年8月）の開催にあたっては、推進ビジョンの基本的な5つの視点ごとに、2パターンの実施方法で開催していることから、「住まいと住まい方」の2回目として開催したい。

○その際に、パターン2での開催となるが、会場の中に用紙を貼り、個人ワークでの記載した付箋を貼ることを想定していたことから、接触を避けるため、各グループの作業として、取りまとめについては、テーブルごとに付く、進行補助者が付箋の整理を行うこととしたい。

○また、「住まい方」に着目して、「住み続けられる地域にしていくためには」をテーマとして、グループディスカッションを行い、関連する取組をすでに実践している数名の方から、コメントをいただく形としたい。

※住まい方とは

「住まい方」とは、家族等や地域コミュニティとの、生活を送る中での関わり合いとそれを含めた多様な生活の仕方を示すものであり、「誰と関わり、どのように生活していくか」といった観

※今後の新型コロナウイルス感染症の感染動向によっては、オンラインでの開催等の新たな手法についても検討していくこととしたい。